

宝満山ヒキガエルを守る会

宝満山のヒキガエルが登頂する現象は、2016年に佐賀大学名誉教授で農学博士である田中明氏と自然映像作家の末永邦夫氏がカエルの活動生態を観察したことにより確認・発表されました。5月下旬から7月上旬の約1か月余をかけて子ガエルたちが登頂活動をするとの報告でした。

これをうけ、以前より産卵期・登頂期のカエルの見守りをおこなってきた登山者からなる有志は、「宝満山ヒキガエルを守る会」を立ち上げ保護活動を開始しました。

本会は、カエルの道中に注意書き看板を設置するなどの見守り活動を行うとともに、カエルの観察記録やガイドブック、童話を作成し、宝満山のヒキガエルについて知ってもらい、カエルたちが住まう宝満山の自然と歴史への愛着を深めてもらいたいと願っています。

<育成活動内容>

- ・宝満山に生息するヒキガエルを観察する。
- ・産卵のために池まで下山する親ガエルたち、池から宝満山山頂を目指して登頂する子ガエルたちをサポートする。
- ・観察記録、登山記、物語等の発表、写真展、ビデオ上映会、観察会等の実施を通して、宝満山の保護を訴える。



太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・コト(文化遺産)。これを将来に伝えたいと思う物語と、それを守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切だと納得したものです。

【市民遺産の例】

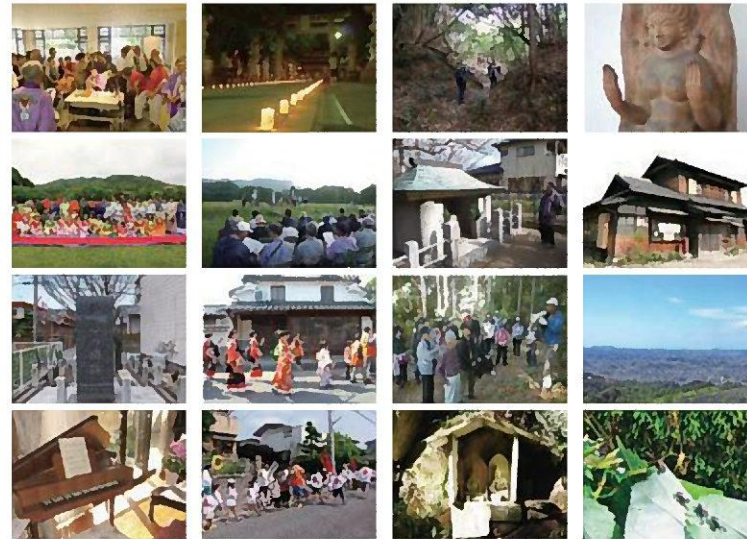
石碑と地元の人々の物語

石碑などの関連する文化遺産

石碑を守る人々の活動



■認定されている太宰府市民遺産 16件 (2021年2月現在)



ほうまんざん

宝満山のヒキガエル

太宰府市民遺産：第16号

認定：令和2(2020)年10月14日

景観・市民遺産育成団体：宝満山ヒキガエルを守る会

発行：太宰府市景観・市民遺産会議

(事務局：太宰府市教育委員会文化財課)

発行日：令和3(2021)年2月19日



太宰府市民遺産のロゴマーク



http://www.takasaki-city.jp



太宰府市民遺産

第16号

宝満山のヒキガエル



宝満山ヒキガエルを守る会

宝満山を登るヒキガエル

標高 829mながら急峻な山路の宝満山は福岡県内で屈指の人気を誇る山です。そんな宝満山では 5 月下旬から 7 月初旬にかけての梅雨時期、不思議な現象が見られます。それが体長わずか 1 cm 足らずのヒキガエルの子どもによる登頂です。

宝満山中に生息するヒキガエルは 2 月頃、野々道池に降りて産卵を行い、10 万以上とも言われる数の卵を産みます。卵は数週間で孵化し、池は無数のオタマジャクシで溢れます。3 月に孵化したオタマジャクシは池で成長し、2～3 か月で子ガエルへと変態します。約 1 万～10 万の変態した子ガエルたちは池から上陸し、続々と最大標高差 600m、道程約 2.5 km の山頂を目指して登頂を開始します。子ガエルは途中から登山者と同じ登山道を通りながら一の鳥居、羊腸の道、百段がんぎ、中宮跡などのスポットを通過し、山頂の本宮を目指して、だいたい 1 か月かけて登頂します。



ヒキガエルの卵。一度に 8000 個ほどの卵を生む。



孵化したオタマジャクシ。数が多いため黒い塊のように見える。



池から出てくる子ガエル。



列になって進む子ガエル。

ヒキガエルの登山行程図

■ 観察記録 (宝満山ヒキガエルを守る会による)

野々道池を出発してから山頂に登頂するまでの期間

2016 年 5/24 出発～6/25 登頂

2017 年 5/24 出発～7/7 登頂

2018 年 5/13 出発～6/27 登頂

2019 年 5/19 出発～※7合日までしか確認できず

2020 年 5/14 出発～6/30 登頂



▲ 山中の車道と側溝。子ガエルだけでなく親ガエルにとっても危険な場所。



◀ 側溝に落ちた子ガエル どうやって上るか、集まって会議しているようにみえる。

カエルを待ち受ける難所

山登りを開始した子ガエルたちには多くの難所が待ち受けています。山中の車道を通る車により、多くのカエルが轢かれるほか、深さ約 30 cm の側溝は一度落ちると這い上がるのは大変です。次に待ち受けるのは蟻の行列。近くを通ると襲われてしまいます。そして天敵の蛇、ヤマカガシの襲来。ヤマカガシはヒキガエルを好物とし、山中の茂みからカエルを狙います。

これらの難所を乗り越え、最終的に頂上までたどり着くのは 100～1000 匹程度だと考えられます。

多くの子ガエルは道中で天敵に食べられてしまうほか、途中で自分の生活場所を見つけ登山を辞めるようです。子ガエルは山中に入り大人になるまで暮らし、産卵時期になると池に戻ってきます。

なぜカエルが登山するのか、詳しい理由は分かっていませんが、登山者の靴底に付いたカエルの匂いが「匂いの道」となって、カエルの道標になっていると考えられています。

宝満山に生息するヒキガエルと、宝満山に登る人の営みが結びつき、この現象が起きたのかもしれない。